



こころの虹

OIKAWA HOSPITAL INFORMATION KOKORO no KAKEHASHI

♥ホームページ URL <http://www.oikawahp.net> ♥Eメール address info@oikawahp.net

編集・発行

医療法人 にゅうわ会

及川病院

〒810-0014

福岡市中央区平尾2丁目21-16

TEL 092-522-5411

No. 27 2012年10月 発行

患者様の権利と義務

患者様には「ご自身が生命の主人公」として、医療従事者とのよりよい人間関係を築いていただけます。以下の「守られていること」「守っていただきたいこと」があります。

人 格 権

患者様は個人としての人格、価値観などを尊重されます。

受 療 権

いつでも必要かつ十分な医療サービスを受けるために、医療機関を選択する権利があります。

知 る 権 利

病名、病状、診療計画、検査・手術、薬、必要な費用などについて、納得できるまで説明を受ける権利があります。

同時に、私たちに既往歴、現病歴、現在の治療内容、アレルギー歴など健康に関する情報を正確にお伝えください。

自己決定権

十分な説明を受け、理解した上で、提案された診療計画などを自らの意志で決める権利があります。

同時に、それらの内容に関する指示を守る義務があります。納得できない場合は、他の医師や医療機関の意見を求めることができます。

プライバシーに関する権利

個人の秘密や医療に関する個人情報を守られ、私的なことにみだりに干渉されない権利があります。

参加する権利

診療内容や病院の運営につき苦情や意見を述べ、医療改善の活動に参加する権利があります。安全性を高めるためお名前のご確認などにご協力ください。

毎年ピンクリボン月間には職員全員で案を出し合って、その年のピンクリボンデザインを決めます。今年のテーマは「絆」としました。未曾有の災害に見舞われた我が国のこれからを思うもありますが、実は病の人にとって力になるのは人の支えだと思ふからです。それを「絆」と読み替えました。患者様のお話を伺っていると、ご主人やお子様つまりご家族のことがよく出てきます。勿論一番不安なのは自分自身のことと違いないのですが、人はそういう場面では最愛の人のことを最も気にかけるのかも知れません。私たちは患者様だけを治療の対象として考えるのではなく、その方の人生を作っている周りの方々のことをも考えた医療や情報を提供していく必要があります。遺伝相談外来の目的の一つはそこにあります。乳がん看護認定看護師による「乳がん看護相談室」も開設しました。不安な気持ちは留めておかず信頼できる人と話をすること、これも「絆」の一つではないでしょうか。当院で行っている出張講演活動に「男性の方だけの乳がん講演会」というメニューを作っています。奥様やパートナーの方が体や心に傷を負われたときに最も頼りたいと思われるのは、傍にいる男性のはずだからです。女性だけの問題とせず、家族みんなで向き合っていけたらと思っています。職員からのたくさんのデザイン案の中から1点を選んだデザイナーの森さんはその理由をこう述べておられます。「幸せを運ぶ四つ葉のクローバーをピンクリボンが見えない「きずな」でつながっている。そして、そのきずながたくさんあるからこそ幸せになれるのだと」私たちは患者様との「絆」を大切にしていかなければなりません。



ピンクリボン活動報告

2012年 及川病院ピンクリボンシンボルマーク

及川病院では毎年、全職員がオリジナルのシンボルマークを考えます。その中から最も優秀なものが及川病院ピンクリボンシンボルマークとして選ばれ、グッズや活動に使われます。

今年は「きずな」というテーマで募集し、ピンクリボンに幸せの四つ葉のクローバーを組み合わせたマークに決定しました。

今回のグランプリ作品は一見「きずな」とは関係のないアイディアのように見えますが、幸せを運ぶ四つ葉のクローバーをピンクリボンに添えることによって、幸せとピンクリボン運動が見えない「きずな」でつながっている事を気づかせてくれます。友人との「きずな」、恋人との「きずな」、家族との「きずな」、病院のスタッフと患者様の「きずな」など沢山の「きずな」がある

からこそ幸せになれる。そしてその幸せを守り続けていくためにピンクリボン運動により多くの人に関心を持ってもらいたい、そしてみんなに幸せになってほしいという願いが読み取れます。地道だけれどとても素晴らしいメッセージが今年もまたオリジナルマークをアイキャッチとして及川病院から発信されます。





平尾の「ひらぐら市場」で 乳がん検診を呼びかけました

10月6日(土)、平尾駅前の福岡市計量検査所にて行われた「第4回ひらぐら市場」にて、乳がん早期発見・早期治療を呼びかけました。乳房模型には多くの方が集まって来られ、スタッフの説明に熱心に耳を傾けながら、模型を触れていらっしゃいました。乳がんのを見つけ方や自己検診方法への関心の高さが伺えました。



H24年ピンクリボン活動報告



ピンクリボン運動街頭活動



今年も天神にて乳がん検診を呼びかける街頭活動を行いました。医師、看護師他スタッフと一緒に患者様も参加していただき、当院オリジナルピンクリボングッズ(今年は自己検診法等リーフレット入り)クリアファイルを配布しました。また、乳房模型には幅広い年齢層の方が足を止めてしこりを探しながら看護師に質問されていました。こうした小さな活動から検診率向上の輪が広がってゆくことを願って、今後も続けていきたいと思います。



緩和ケア便り

～2012年夏祭り～

今年の夏祭りは緑多くりニューアルされ、街中及川病院のオアシスとなった屋上ガーデンも使って開催されました。オープニングのスイカ割りで始まり、何故か皆さん自然に体が動く炭鉱節と続きます。毎年恒例、ひげダンスコンビとカールおじさん(おばさん??)による皿まわしなど軽わざを交えた芸では、患者様の笑いを誘うことが出来て、芸人冥利に尽きるひと時だったようでした。

一方、夜の部では、ちょっとほろ酔い気分のガーデンでの夕涼みの中、花火の明かりで照らされたご家族との思い出のワンシーンを垣間見る事もでき、企画スタッフ一同喜びを分けて頂きました。



子供たちと一緒に花火



炭鉱節～サノヨイヨ～♪



スイカ割り



美味しいそうめん流し



☆ひげダンスコンビ☆



芸人たちのひげ写真
「パチリ！」



たこ焼き名人



花火きれいですね



カールおじさん
(おばさん??)



浴衣で祭りを
盛り上げました



ピアノの演奏も♪

～ホスピス緩和ケア週間 及川病院コンサート～

10月13日(土)は世界ホスピス緩和ケアデーです。日本各地で緩和ケアの普及啓発活動が行われました。当院ではコンサートを開きました。松永かおるさん(ソプラノ)と草場富美子さん(ピアノ)による童話や唱歌のコンサート、何曲も患者様やご家族と一緒に歌いました。稲光医師のソロもあり初めて聴く先生の歌声に拍手喝采でした。



3階病棟スタッフ紹介

乳腺・一般病棟は乳腺疾患でも主に**「乳がん」**の治療を目的とし、初期治療から再発後の治療までトータルに行っている病棟です。乳がん治療への不安や悩みは、患者様やご家族にとってとても大きな問題です。一人ひとりの患者様に応じた極め細やかで、専門的な看護を提供できるようにスタッフ一同努力しています。いつもそばに寄り添い、心と身体の両面から安心できるチーム医療を目指しています。不安や質問などありましたら、いつでもご相談ください。



乳癌の再発（1）

これから数回にわたり乳癌の再発について考えてみましょう。再発とは、乳癌が治療（手術、放射線療法、化学療法、ホルモン療法など）により、いったん臨床的に消失した後、種々の臓器に転移し、再び出現したものを言います。再発と転移という言葉があります。厳密には再発は乳房や領域リンパ節に癌が再び出現した場合を言い（局所・領域再発）、転移は血液を介して癌細胞が遠くの臓器に“転移”した場合に転移という（遠隔転移）ことが多いようです。これらを含めて、広い意味では癌が再現したときに再発乳癌といいますが、転移性乳癌という言葉も使われます。

乳癌が乳房に限局していれば外科手術で摘出すれば治癒しますが、癌細胞が他の臓器に転移し、そこで増殖することによりその臓器の機能を傷害し、死に至らしめることが悪性といわれる所以です。

乳癌の手術（と放射線療法）が乳癌治療の鉄則ですが、手術後に最も問題となり、怖いのは再発といわれています。手術と放射線療法は乳癌自体とその周辺の癌の浸潤や同側乳房内の再発や多発癌をコントロールしますが、あくまで局所療法であり、その範囲を超えた乳癌の転移・再発を抑制することはできません。

癌の転移は、癌細胞が原発巣から分離し、血管やリンパ管に侵入、遠隔部位に移動し、血管外に遊出し、新しい環境に定着し、微小転移を起し、さらには血管新生を伴う転移巣を形成します。癌細胞は宿主の免疫監視機構を避けながら、新しい癌細胞集団を形成します。

癌が転移する場合には、好発の遠隔臓器が存在することを120年も前の1889年にパジェットが“種子と土壌”仮説として記載し、広く受け入れられてきました。種子としての乳癌細胞が転移する臓器の微小環境が生育に適した肥沃な土壌として必要であり、癌細胞の生物学的な性格と転移部位の環境という2つの因子が適合し、転移する癌細胞は転移する臓器に対する特異的な親和性をもつと考えられます。南の国の椰子の実が黒潮に乗って日本の海岸に漂着し、芽を出して、椰子の木に成長することを想像してください。大きな椰子の木に成長するためには、椰子の実が活力をもって生きており、黒潮の流れが適切であり、流れ着いた海岸の土壌が芽を出し、成長するのに適当であることが必要です。

最近の分子生物学の研究により、これらの転移のプロセスに関与する遺伝子やその産物の蛋白質の働きが明らかになっています。

また、どのようにして癌細胞が増殖し、転移するかという仮説が多くありますが、そのうち現在最も有力なモデルは癌幹細胞仮説です。乳癌細胞のうちの極く少数の乳癌幹細胞のみが新しい癌細胞を形成する自己複製能をもち、腫瘍形成および進展、再発、転移をドライブする。転移は原発巣からの癌幹細胞が遠隔臓器に散布されることによると考えられます。乳癌幹細胞が乳癌の発生初期から遠隔臓器に存在する可能性が指摘されており、末梢血または骨髓内に乳癌幹細胞と推定される細胞が検出されています。癌幹細胞はゆっくり増殖し、放射線、化学療法やホルモン療法などに耐性であり、再発の起源となるのです。